

# 紀尾井だより

3/4 March / April 2023 [Vol.158]

紀尾井 明日への扉

河井 勇人 (ヴァイオリン) 大藤 莞爾 (チェンバロ)

タレイア・クアルテット (弦楽四重奏) 本堂 竣哉 (ピアノ)

浮世絵で楽しむ邦楽～大谷コレクション2

河竹黙阿弥の世界

2023年度前期

邦楽主催公演 ラインナップ

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話

コンクールをめぐる3話

# 河井 勇人

ヴァイオリン



# 大藤 莞爾

チェンバロ



# タレイア・クアルテット

弦楽四重奏



# 本堂 竣哉

ピアノ



三菱地所 presents

紀尾井

# 明日への扉

いまキラリと光る若手アーティストが開く「紀尾井 明日への扉」

——その向こうにある大きな未来と豊かな音楽の世界へご案内します。

協賛：三菱地所株式会社

「明日への扉」を常に叩きつづける  
若者たちの心の声を聞こう

旧間に属するが、2022年に一番印象に残った言葉は、夏の甲子園で優勝した仙台育英学園高校野球部監督の「青春って、すごく密なので」という、ストレートに訴えかけてくる言葉だった。合唱部ですっと過ごした私の青春も「密」だったと回想したが、「一方でふと「青春って、まったく密ではないので」と心のなかで呟いた若者も多かったに違いないとも思った。

密ではない青春。その代表が、ひとりで過去の傑作に向き合い続けている、音楽を志す若者たちだろう。譜面台に乗っつけられた楽譜には自分の細かい書き込みがあり、それに従うも、それに抗うも、自分の判断に任されている。もちろん師との会話、同じ楽器を志している同世代のライヴァルとの会話もあるだろうけれど、音楽に向き合うときは、まず、ひとりで楽譜に向き合うという沈黙からスタートする。演奏家を志す若者にとっては避けられない運命だ。

世界的なコンクールに出場していた若いピアニストたちの振る舞いをドキュメンタリーなどで観ていると、そこに同じ未来を夢見ている者どうしの連帯感を感じると同時に、どうしても孤独な研鑽に向き合わざるを得ないアーティストの影を観てしまうのは、たぶん私が歳をとり過ぎたからなのだろう。しかし、その光と影のコントラストのなかに、明日への扉が隠されているのである。

## 花開く日本の若い世代

いま日本の若い世代の音楽家たちは、世界的に見ても、非常にレベルの高い音楽性を持っている。それを証明してくれたのが、この「明日への扉」シリーズだ。2013(平成25)年度からスタートしたこのシリーズに登場した演奏家の顔ぶれを見れば、それがどれほどのレベルで花開いたかが分かる。そして、陸続と若い演奏家たちが登場して来ている。2023年度の「明日への扉」コンサートのラインナップがそれを証明してくれるだろう。

### 河井 勇人

#### ーヴァイオリンー

まず、5月にはヴァイオリンの河井勇人が登場する。2002年生まれで、すでに国際コンクールで優勝し、海外オーケストラとの公演もスタートさせている逸材だ。ピアノに清水和音を招き、フランスのふたりの作曲家の重要なソナタに加え、モーツァルト、プロコフィエフのソナタ、そしてバッハの「シャコンヌ」を組み合わせた重厚なプログラムで、その演奏の中に光る新しい感性に期待したい。

### 大藤 莞爾

#### ーチェンバローー

続いて、6月にはチェンバロの大藤莞爾が、チェンバロ黄金時代と言える18世紀バロックの名作を花束のように集め

たプログラムで演奏する。2005年生まれの彼は、2016年には長き伝統を持つオランダ・バッハ協会主催のバッハ全曲プロジェクト「All of Bach」のインヴェンション・プロジェクトのメンバーに選ばれ、ユトレヒトでの公開収録コンサートに出演している。コンクールにも入賞を重ね、巨匠スキップ・センペから絶賛されたと言う。YouTube上に演奏動画を数多く公開している点も、まさに新世代のアーティストとしての面目躍如というところ。古楽という言葉をとらっしゅボックスのなかに投げ入れられるように、いまここに現れるチェンバロ音楽の傑作の魅力を教えてくれるに違いない。

### タレイア・クアルテット

#### ー弦楽四重奏ー

少し時間があいて、12月には弦楽四重奏のタレイア・クアルテットが登場する。この団体はサントリールホール室内楽アカデミーの第5期に在籍していた時から聴いているのだが、アカデミーを終えた後もアンサンブルの密度を高めて、成長し続けているグループである。彼女たちが選んだ「セリオーン」「死と乙女」、そしてメンデルスゾーンの「第1番」は、弦楽四重奏団にとっては王道とも言えるプログラム。過去の名演とも現在の気鋭の団体とも比較されることを厭わない姿勢に、弦楽四重奏に賭けるスピリットが感じられると言いたい。

### 本堂 竣哉

#### ーピアノー

そして2024年2月になるが、東京藝術大学入学直後の2022年に第9回野島稔とよすかピアノコンクールで第1位を獲得した注目のピアニスト、本堂竣哉が登場する。ベートーヴェンの大作《ハンマークラヴィア》(作品106)を選んだことにも驚くが、ブゾーニ編曲のバッハから始まり、同じバッハの「イギリス組曲」を並べていくという選曲のセンスに、すでに大胆さと繊細さを併せ持つ気鋭の意欲を感じる。それを真正面から受け止めたい。

「明日への扉」シリーズを聴く楽しさは、才能の発見だけではなく、その才能が次にどんな扉を開けようとしているか、扉への彼ら彼女らのノックの音を聴き取る点にもある。それは、すべての音楽を愛する人の心の鼓動と重なるはずである。(いま)を目標しよう。

文/片桐卓也(音楽ライター)

## 4公演セット券 好評販売中

第35回から第38回まで全4公演を同一座席でご鑑賞いただくセット券です。S席セット券はたいへんお得になっています。

### 4公演セット券

S席 10,000円 A席 2,000円

販売は5月19日(金)13時まで  
紀尾井ホールウェブチケットのみでお取扱い

### 各公演 単券

S席 3,000円 A席 500円

U29 S席 1,000円

### 第38回 本堂 竣哉(ピアノ) Shunya Hondo

2024  
2/22  
木  
19:00

【曲目】  
バッハ/ブゾーニ: 前奏曲とフーガ変ホ長調  
《聖アン》BWV552  
バッハ : イギリス組曲第3番ト短調  
BWV808  
ベートーヴェン : ピアノ・ソナタ第29番  
変ロ長調 op.106  
《ハンマークラヴィア》

10.27[金] 正午発売

### 第37回 タレイア・クアルテット (弦楽四重奏) Thaleia Quartet

12/13  
水  
19:00

【曲目】  
ベートーヴェン : 弦楽四重奏曲第11番  
ヘ短調《セリオーン》  
メンデルスゾーン : 弦楽四重奏曲第1番  
変ホ長調  
シューベルト : 弦楽四重奏曲第14番  
二短調《死と乙女》

9.8[金] 正午発売

### 第36回 大藤 莞爾(チェンバロ) Kanji Daito

6/8  
木  
19:00

【曲目】  
バッハ : イギリス組曲第2番  
イ短調 BWV807  
フランス組曲第4番  
変ホ長調 BWV815  
パルティータ第1番  
変ロ長調 BWV825 (ほか)

3.10[金] 正午発売

### 第35回 河井 勇人(ヴァイオリン) Eugene Kawai

5/19  
金  
19:00

【曲目】  
モーツァルト: ヴァイオリン・ソナタ(第32番)  
変ロ長調 K.454  
ラヴェル : ヴァイオリン・ソナタト長調  
バッハ : シャコンヌ~無伴奏ヴァイオリン・  
パルティータ第2番 BWV1004  
ドビュッシー: ヴァイオリン・ソナタト長調  
プロコフィエフ: ヴァイオリン・ソナタ第2番  
二長調 op.94a

3.10[金] 正午発売

\*公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

浮世絵で楽しむ邦楽

大谷コレクション2

かわたけもくあみ

# 河竹黙阿弥の世界

大谷コレクション第2回は、没後130年を迎える河竹黙阿弥の世界をお届けします。演奏会を前に今回取り上げる黒御簾音楽の妙味について、長年歌舞伎制作に携わっておられる松竹株式会社岡崎哲也さんにご寄稿いただきました。

## 「黒御簾音楽の生命」

歌舞伎芝居の音楽で、主に長唄とお囃子の演奏家によって演奏される「黒御簾」は特別な存在である。舞台下手にある、そう広くもない芝居のオーケストラ・ピット、黒御簾で演奏されるので其の名があるが、「黒御簾」は単に伴奏音楽ではない。俳優の演技に音を附けてゆく仕事は、オペラのレチタティーヴォやアリアを指揮者のタクトで伴奏するに等しい印象がある。新作ではどの場面でもどの曲を演奏するかは芝居を知り尽くした附師の領分だが、古典の作品ならば、おおよそ決まった曲が指定されている。だから伴奏音楽のように見えるのだが、黒御簾の最大の苦心は、コンサート・マスターにあたる舞台師(三味線や歌の首席演奏者)が、演奏者であると

同時に指揮者の能力も備えていなければならない点にある。

### 芝居にアクセントを与え、舞台を高揚させる

河竹黙阿弥が明治十六年に書いた「魚屋宗五郎」。主人公が禁酒を破り、はじめは茶碗で一気に飲み、もう一杯飲んで、久方ぶりの酒がまわって酒乱が始まり、片口で呑み、ついに角樽を飲み干し大暴れになる。初演の五代目菊五郎以来、流れるような芝居の段取りがついているが、黒御簾から聞こえる「西行桜の合方」が、飲酒の芝居を支える。はじめはサラリと弾かれ、酔いが増すに従ってテンポと量感が増してゆく。俳優のセリフの邪魔にならぬよう「セリフを拾う」と言う(氣を配りながら、三味線はクレッシェンドしましたアッチェランドする。宗五郎の眼がすわり空になった角樽をポンと置くと、江戸の祭礼の浮かれ囃子の「四丁目合方」になる。主人公の宗五郎は暴れまくり家を飛び出し、花道の七三で樽を掲げて見得をし、憤怒の相で向こうへ入る。舞台師は、これらすべて芝居を眺めながら、絶妙なデューナミック(強弱)とアゴーギク(テンポの変化)で黒御簾のメンバーをリードしながら演奏する。すなわち指揮をしながら演奏するのである。演技の邪魔をせず、芝居にアクセントを与え、舞台を高揚させる。

### 細い御簾の間から俳優の動きを凝視

芝居の国で「四谷さま」と呼ばれる「東

海道四谷怪談」に、不実な夫の犠牲になる妻のお岩が毒薬を盛られたと知らず、身繕いする「髪梳き」の場面がある。「瑠璃の艶」という楽曲を此処では唄の舞台師が独吟(ソロの歌唱)で歌い、三味線が伴奏する。少なくとも明治二十年代から不変の演出で、お岩が化粧道具を持つてこいと言うのと「竹垣の草に」という一の句が奏され、髪梳きにとり掛かると「露に湿りて」の二の句、セリフのやりとりの間が「朝夕べに面瘦せし」の三の句で、梳きあがる瞬間が「花が花なら、ものは思はじ」となる。歌も三味線も舞台師は黒御簾の細い御簾の間から俳優の動きを凝視し、気持ちに寄り添い、それこそ髪ひとすじの狂いなく「瑠璃の艶」を奏する。間合いと空気を読みながら、音楽で芝居を包むのだから、明らかに伴奏の域を超越した、「指揮しながら演奏する」バロック・オペラさながらの藝術に他ならない。

### 江戸と上方の色を弾き分ける

また芝居の国には、江戸と上方、東西の演目があるので、自ずと「黒御簾」の演奏にも風土の違いがある。近松原作を改作した「心中天網島」の「河庄」。主人公の治兵衛を弄りに善六、太兵衛という敵役の花道の出に、十代目杵屋六左衛門の名曲「八島官女」の「友のぞめき」の唄の前の三味線が演奏される。大坂の廓の喧騒が見事に広がってゆく。これを最初に使った俳優や附師の感性に頭が下がるが、こんな楽曲はふだん江戸の鱈背な芝居を弾いて



慶應元年8月市村座「処女評判善悪鏡」豊原国周画

いる演奏者だと、なかなか上方の色にならない。上方の俳優からは、「あのね、もつとドヤドヤと弾いてくれないと。匂いが違うのよ」とダメが出る。テクニクだけでは答えの出ない、「黒御簾」は重労働である。

### 俳優によって違う芝居のイキ

映画俳優として大活躍した勝新太郎さんと昔、柳橋で夜通し飲み明かした。近代



15代目市村羽左衛門「め組の喧嘩」辰五郎

の名人、杵屋勝東治師の次男であり、若い頃は杵屋勝丸を名乗って三味線を弾いていた。十代の頃、芝居の黒御簾に入入りし勉強した。六代目菊五郎の「め組の喧嘩」で、いよいよ妻と子に別れ喧嘩に赴く浜松町の辰五郎の引つ込み。チンチリ、トチチ、チンチリ、トチチ…と勝さんは爪弾きで弾いてみせ「この頭のチンチリをさ、芝の先生(菊五郎)は、これが女房、子供と永遠の別れだから、肚で泣いて弾いてくれ、二足、三足で、そいつを振り切つて、サーッと走り出すんだから、足を見て弾いてくれって言つてたね。六代目さん、上手かったなあ」と嬉しそうに語っていた。初演者五代目菊五郎の辰五郎を観ている今ひとりの名優十五代目羽左衛門だと、体を見ないで、勢いひとつで弾いてくれ…だったそうだよ。親父・勝東治師から聞いた」というから答えはひとつではない。これも黒御簾の妙味だろう。同じ演目、同じ場面でも初代中村吉右衛門の机下で育つた俳優と六代目尾上菊五郎の机下で育まれた俳優とでは、芝居のイキが違い、寸法も違う。幕内の言葉で「学校が違う」と言う。播磨屋のロマンティズムと六代目のリアリズム。

ム。これを私は幼い頃、近くにお住いの方にあつた杵屋栄二師から随分聞かせて頂いた。「播磨屋の旦那を弾いていると自然と時代になる(たつぷりと少し粘つて弾く)のでね、六代目さんのお芝居を見ると随分さっぱりしたように思いました。でも時間(上演時間)はそう変わらないんです。播磨屋さんは、うんと芝居を為さるところと、捨てる(あつさり運ぶ)ところがありでした」。日本有数のメルクリン(鉄道模型)のコレクターだったので、栄二さんの稽古場の床の間は一面のジオラマだったが、その広間であつた話である。菊五郎と吉右衛門はクラシック音楽で言えばトスカニーニとフルトヴェングラーに当たるわけだが、このクラスの俳優の黒御簾を弾くのは、並大抵の事ではなかつただろう。今回の催し、「大谷コレクション2 河竹黙阿弥の世界」の主役である杵屋巳太郎さんは、その「黒御簾」を四十年間、弾いている。此処に、伝統歌舞伎の有難みを感じる。

岡崎 哲也(松竹株式会社 常務取締役 演劇本部顧問・東京交響楽団理事長)

## 浮世絵で楽しむ邦楽 大谷コレクション2 河竹黙阿弥の世界

【演目】  
お話「河竹黙阿弥の女たち」渡辺 保

黒御簾音楽で聴く河竹黙阿弥  
演奏 尾上菊五郎劇団音楽部  
対談 杵屋巳太郎、渡辺 保  
長唄「茨木」  
杵屋勝四郎、杵屋巳太郎 他

3/13  
月  
18:30

※公演開催についての最新情報は  
紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

## 邦楽主催公演

2023

## 年度前期 ラインナップ

2023  
4月15日  
(土)  
14:00

紀尾井たつぷり名曲6 長唄

二人椀久・鷺娘

杵屋東成×杵屋勝祿

【出演】唄 杵屋東成、今藤長二郎、杵屋三郎、杵屋正則、杵屋勝四郎  
三味線 杵屋勝祿、今藤美治郎、杵屋貞直、杵屋勝国悠、杵屋勝司郎  
囃子 藤倉呂英社中  
解説 児玉竜一  
【演目】長唄「二人椀久」鷺娘



杵屋勝祿 杵屋東成

2023  
5月31日  
(水)  
14:00

和生・勘十郎・玉男三人会(第二回)

【出演】太夫 竹本鍛太夫、豊竹呂勢太夫  
三味線 鶴澤清介、竹澤宗助、鶴澤清方(胡弓)  
人形 吉田和生、桐竹勘十郎、吉田玉男  
吉田玉延、吉田養紫郎 ほか  
聞き手 児玉竜一  
【演目】「恋女房染分手綱 重の井子別れの段」  
「伊賀越道中双六千本松原の段」  
座談会



吉田玉男 桐竹勘十郎 吉田和生

2023  
6月17日  
(土)  
14:00

新紀尾井素踊りの会 第四回

西川箕乃助

【出演】立方 西川箕乃助  
清元 清元清栄太夫、清元栄吉 ほか  
囃子 堅田新十郎社中  
地歌 富山清琴  
お話 渡辺保  
【演目】清元「玉屋」  
地歌「ちよんがれ一休」



西川箕乃助

2023  
7月2日  
(日)  
14:00

豊澤富助をきく会

【出演】浄瑠璃 竹本千歳太夫  
三味線 豊澤富助  
聞き手 渡辺保  
【演目】義太夫節「仮名手本忠臣蔵 九段目 山科閑居の段」



豊澤富助 竹本千歳太夫

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

クラシック音楽の  
テーマに基づく3つの話

# コンクールを めぐる 3話

今や国際コンクールで日本人の優勝や上位入賞は珍しくなくなったが、コンクールの歴史を紐解くと、興味深いエピソードが満載だ。では、あんな話こんな話を3つほど…

## 1 コンクールの誕生

そもそもコンクールとは、ある課題を参加者が競う選抜会 concours のフランス語がもとで、語源は「集まる」「ぶつかる」を意味するラテン語の concursus。紀元前9世紀頃の古代ギリシャの時代には、オリンピック祭典競技会というものが大々的に開催されていて、文字通り集まってぶつかる種目のレスリング、ボクシング、ランニング、円盤投げ、やり投げ等々の他、映画『ベン・ハー』にも出てくる2頭もしくは4頭の馬が二輪車を引く戦車競走は、人気の花形種目でした。そもそも全能の神ゼウスら神々を崇めるために行われていた祭典競技会なので、種目は運動系だけではなく芸術部門もありました。皇帝ネロ全盛期の頃は、ネロ自身が歌唱を披露したために、声楽のカテゴリーが倍増したとか。

## 2 リストも闘った

きらめく才能や高い技術など、腕に覚えありの兵が揃うコンクール。かつてはリストとタールベルクも競っていたのです。超絶技巧を誇り、華やかなスター性も兼ね備えていたフランツ・リスト(1811~1886)。ロマン派期、ショパン(1810~1849)やシューマン(1810~1856)など時代の寵児がひしめくなか、ジギスモント・タールベルク(1812~1871)もその一人で、リストとはライバル関係でした。1837年、イタリアから政治亡命してパリでサロンを開いていたクリスティーナ・ベルジョイオゾ侯爵夫人が、イタリア難民支援公演のためにリストに委嘱作品を依頼。夫人がオペラ好きなので、リストはベツリーニのオペラの主題をもとにショパン、チェルニー、エルツ、ピクシス、そしてタールベルクという当代きつての技巧

1912年、近代オリンピックの基礎を築いたピエール・ド・クーベルタン男爵は、古代オリンピックへの敬意から、5部門(建築、彫刻、絵画、音楽、文学)での芸術競技を採用。1924年のパリ大会・音楽部門の審査員には、ストラヴィンスキーの名も。しかし当初から問題視されていたことから、1948年ロンドン大会で公式な芸術競技は幕を閉じました。

## 3 プレッシャー悲喜こもごも

派たちと変奏曲を作ることに…が期日までに間に合わず。そこで夫人は「リストvsタールベルクのピアノ合戦」を開催。タールベルクは驚異の多声を弾くことから「3本の手」とも言われる高い技術を持っている。「世界一のピアニストはタールベルク、リストは唯一無二のピアニスト」という夫人の評は有名です。

若い頃は、髪型もお辞儀も尊敬する同郷のアルゲリッチに酷似のイングリット・フリッター。優勝候補の一人とされた2000年のショパン・コンクール。本選ではロングヘアが短いボブに。あとで聞いたら、「緊張の毎日で、本選前には発狂寸前。それで突発的にホテルの部屋で髪を切っちゃったの。ところが鏡を見て、どうしよう!こんな髪型!と大泣き。それで吹っ切れたのか、本選では無事に弾けました」と言うフリッター、今では良妻賢母で名ピアニストです。1995年、仙台での「若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール」。兵揃いの中国勢の中でも優勝を狙っていた一人が体調不良となり、いつもエンジョイしていた13歳が優勝。誰もがノーマークだった、それが今やスターピアニストのラン・ランでした。

East meets West  
アレクサンダー・ガジェヴ  
&  
三浦 謙司  
ピアノデュオ・リサイタル

6/14  
水  
19:00

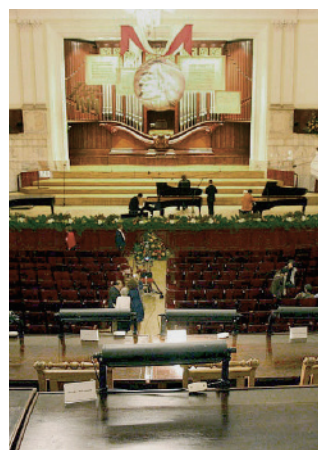
【曲目】  
シューマン : 東洋の絵 op.66(連弾)  
リムスキー=コルサコフ: 交響組曲(シエラザード)より  
チャイコフスキー : くるみ割り人形  
ストラヴィンスキー : 火の鳥(以上2台ピアノ)

チケット発売日/2023年3月17日(金)正午

※公演開催についての最新情報は  
紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

文/上田弘子(音楽評論家)

ノコンクールでは共に表彰されていて(第1位ガジェヴ、奨励賞の三浦)、ベルリン・ハンス・アイスラー音楽大学の同窓生でもあります。これまで数々の入賞歴を持ち、三浦は2019年のロン・テイボー・クレスパン国際で優勝、ガジェヴの2021年ショパン・コンクール第2位は、記憶に新しいところ。コンクールはいろいろな涙があるリアルな現場ですが、それを経た今、世界から注目の、剛のガジェヴと柔の三浦。気鋭の二人の共演は楽しみです。



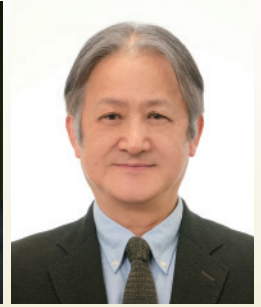
ショパン国際ピアノコンクール 会場

# 第33回 日本製鉄音楽賞 受賞者決定

将来を期待される優れた演奏家に贈られる**フレッシュアーティスト賞**は、ロン＝ティボー＝クレスパン、エリザベート王妃の両国際コンクールで上位入賞し、国内はもとよりヨーロッパでも高い評価を受ける**務川慧悟**さん(ピアノ)、また、クラシック音楽文化の発展に大きな貢献を果たした方に贈られる**特別賞**は、調律師としての優れた能力に加え、コンサートの現場に理想的なピアノを持ち込むスタイルの先駆者としてピアノ音楽業界に大きな影響を与えた**高木裕**さん(ピアノ・プロデューサー、ピアノ技術者)がそれぞれ受賞されました。務川さんは、唯一無二ともいえる精緻な音質と豊潤な音色、そして探究することを楽しむ姿勢と豊かな想像力に益々の期待をこめて、高木さんはこれまでに7000を超える公演を支え、ショパンの時代に製作あるいはラフマニノフやホロヴィッツが使用していたピアノを所有し修復するなど、ヴィンテージピアノの魅力が見直される大きな道筋を作った功績が高く評価されました。



フレッシュアーティスト賞  
務川 慧悟  
[ピアノ]



特別賞  
高木 裕  
[ピアノ・プロデューサー・ピアノ技術者]

## 「こども招待」KCOニューイヤーコンサート

新年を彩る紀尾井ホール室内管弦楽団(KCO)の特別演奏会「KCO名曲スペシャル ニューイヤー・コンサート2023」を1月に開催しました。この公演では文化庁の「子供文化芸術支援事業」として、18歳以下の方360名を招待しました。

名誉指揮者のライナー・ホーネックの指揮をまねて、身振り手振りで一緒に指揮したり、ワルツに合わせて楽しそうに体を揺らしたりの子供の姿があちこちに見られ、舞台上の演者も思わず頬を緩め、とても和やかな雰囲気醸成されました。また、仲間が集まって食い入るように舞台を見つめる学生グループも大勢お越しください、将来の音楽ファン、演奏家の卵たちのエネルギーに溢れた演奏会となりました。

本格的なコンサートを聴くのが初めての皆さまにとっても、忘れられない思い出となったことでしょう。



© ヒダキトモコ



© ヒダキトモコ

## 今号の表紙

### 『ピアノと桜』

【協力】 花 / hanadouraku

紀尾井ホールはスタインウェイ・ピアノを3台所蔵しています。今号の表紙には2番目に若い1台が登場。紀尾井ホールにやってきて6年の若手です。その華麗な響きで演奏家の皆さまから数多くの指名をいただく人気者。「夜のお花見」をイメージして桜と組み合わせました。桜といえば、紀尾井ホール西側に四ツ谷駅まで続く真田堀は有名な桜の名所で、コロナ禍前には毎年季節になると昼夜を問わずたくさんのお花見客で賑わいました。さて、今年はいかがでしょうか。

## 紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

### 紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略)

- 《特別協賛会員》 日鉄ソリューションズ / 三井不動産 / 三井物産 / 三菱商事 / 三菱地所  
 《みやび会員》 伊藤忠商事 / 大島造船所 / KDDI / 商船三井 / 菅原 / 住友商事 / 日本郵船 / 丸紅 / 三井住友銀行 / 三井不動産 / 三井物産 / 三菱商事 / 三菱地所 / メタルワン ほかに匿名2社  
 《ひびき会員》 オカムラ / 高砂熱学工業 / 竹中工務店 / 東京きらぼしフィナンシャルグループ / 山下設計  
 《みどり会員》 青鬼運送 / 赤坂維新號 / 今治造船 / ヴォートル / エーケーディ / NTTドコモ / 荏原冷熱システム / 鹿島建設 / ザ・キャピトルホテル 東急 / 三協 / 清水建設 / 上智大学 / 西武リアルティソリューションズ / 大成建設 / 千代田商事 / パナソニック / 三井住友信託銀行 / 三菱UFJ銀行 / 三菱UFJ信託銀行 / 三菱UFJモルガン・スタンレー証券 / ミュージョン / 明治座舞台 / ヤマハサウンドシステム / ワークショップ21  
 《あおい会員》 青木陽介 / 浅見 恵 / 石崎智代 / 磯部治生 / 伊藤真理子 / 井上善雄 / 岩城宏斗司 / 馬屋原貴行 / 大内裕子 / 大垣尚司 / 大久保なほ子 / 太田清史 / 岡田章一 / 小川 保 / 小樽茂稔 / 糟谷敏秀 / 片山國正 / 片山能輔 / 加藤巻恵 / 神谷昌孝 / 川口祥代 / 菊池恒雄 / 木谷 昭 / 楠野貞夫 / 久保祐子 / 栗山信子 / 河野紗紀 / 小坂由恵子 / 小西美由紀 / 斎藤公善 / 坂詰貴司 / 佐久間庸行 / 佐部いく子 / 潮崎通康 / 清水 正 / 清水多美子 / 清水康子 / 白土英明 / 末岡明武 / 鈴木順一 / 鈴木 亮 / 高下謙吾 / 武上由佳 / 田中 進 / 戸田純也 / 外山雄三 / 鳥居狂太 / 内藤美奈子 / 内藤基之 / 中塚一雄 / 中西達郎 / 中村健司 / 名取正夫 / 西村剋美 / 西村 清 / 原田清朗 / 日原洋文 / 北條哲也 / 堀川将史 / 牧本恵美子 / 松枝 力 / 松本美恵 / 丸井正樹 / 簗輪永世 / 宮島正次 / 宮武悦子 / 宮原 薫 / 宮本信幸 / 陸田 実 / 村上喜代次 / 持留宗一郎 / 八木一夫 / 八木晶子 / 山内寿実 / 横手 聡 / 渡辺弘次  
 ほかに匿名41名 計228口 (2023年2月1日現在)

### 特別支援会員 (五十音順・「株式会社」等表記略)

- アステック入江 / 五十鈴 / NS建材薄板 / NSユナイテッド海運 / NSユナイテッド内航海運 / エヌエスリース / エヌテック / 王子製鉄 / 大阪製鐵 / 九築工業 / 草野産業 / 黒崎播磨 / 合同製鐵 / 小松シヤリング / 山九 / 産業振興 / 三見金属工業 / サンユウ / 三洋海運 / 山陽特殊製鐵 / ジオスター / 新日本電工 / スガテック / 大同特殊鋼 / 大和製鐵 / 高砂鐵工 / 高田工業所 / 鶴見鋼管 / DNPエリオ / テツゲン / 電機資材 / 東海鋼材工業 / 東邦シートフレーム / トピー工業 / 日亜銅業 / 日鉄SGワイヤ / 日鉄エンジニアリング / 日鉄片倉鋼管 / 日鉄環境 / 日鉄ケミカル&マテリアル / 日鉄建材 / 日鉄鋼管 / 日鉄鋳業 / 日鉄工材 / 日鉄鋼線 / 日鉄鋼板 / 日鉄興和不動産 / 日鉄スチール / 日鉄ステンレス / 日鉄ステンレス鋼管 / 日鉄精圧品 / 日鉄精鋼 / 日鉄精密加工 / 日鉄総研 / 日鉄ソリューションズ / 日鉄テクノロジー / 日鉄テックスエンジ / 日鉄ドラム / 日鉄物産 / 日鉄物流 / 日鉄物流君津 / 日鉄物流八幡 / 日鉄保険サービス / 日鉄ポルテン / 日鉄溶接工業 / 日鉄レールウエイテクノス / 日本金属 / 日本触媒 / 濱田重工 / 富士鉄鋼センター / 不動テトラ / 幕張テクノガーデン / 松菱金属工業 / 三島光産 / 宮崎精鋼 / 吉川工業 / ワコースチール  
 日本製鉄 (2023年2月1日現在)

12.15(木) 三菱地所 presents  
紀尾井 明日への扉 第33回 湯川亜也子(メゾソプラノ) 協賛:三菱地所株式会社

- 湯川さんの選曲に対するこだわりが、全くムダのない宝石の結晶のようなギョッと詰まった公演を生んだのだと思います。面白いプログラムだなと思いましたが予想以上で、聴きに来て本当によかったと思います。
- 情熱が伝わってくる真摯で確かな演奏の素晴らしさが一番の理由ですが、それに加えて、聴衆の皆様の落ち着いた雰囲気のおかげで安心して演奏を楽しめました。
- 今回のような珍しいプログラム、とてもよいと思います。伝えたいことが明確に聴き手(観客)へ伝わったように思いました。
- 北とびあの《アルミード》で湯川さんの歌を聴き、もう一度聴いてみたいと思いきよ来ました。期待どおりの素晴らしい歌声でした。バロック弦のお二人も素晴らしく、改めて聴いてみたい。



© 堀田力丸

12.17(土) 音楽でつづる文学5  
源氏物語 一葵上と六条御息所一

- 解説により曲の理解が深まりました。同じ歌詞でも、表現が異なるのが面白かったです。中でも箏曲は演奏を聞いていて鳥肌が立つほどの表現で、大変満足でした。
- 京舞が素晴らしかったです。今後も素晴らしいプログラムを期待しています。
- 地歌舞、素晴らしかったです。美しく、魅せられてくれるのならばずっと観ていたいと思う舞台でした。



© ヒダキトモコ

1.8(日) 邦楽 明日への扉 第1回 杵屋佐喜・稀音家六四郎(長唄)

- 芙蓉曲での佐喜さんと湯川さんのデュエットが佐喜さんでなければできない面白い試みだなあと感じました。「船弁慶」も「神田祭」も邦楽の素晴らしさを実感する素晴らしい演奏でした!
- 大曲「船弁慶」に挑戦されたことに拍手を送ります。よく共演されている方たちが脇を固めた力演で、楽しませていただきました。また、西洋音楽の音楽家との共演も興味深いものでした。
- 若い方々のエネルギーをいっぱいいただきありがとうございました。
- どの演目も活気があり、ひきつけられました。



© 堀田力丸

1.20(金)・21(土)・22(日) 日鉄ソリューションズ プレゼンツ  
KCO名曲スペシャル ニューイヤー・コンサート2023 協賛:日鉄ソリューションズ株式会社

- 新年に相応しい華やかな力強い音の洪水! 堪能させていただきました。
- 楽曲とパフォーマンスがとてもよかった。知っている曲もたくさんあり楽しかった。
- 純粋クラシックの1部とウィーンの香り漂う2部制は良かったです。舞台上に花、演奏者もタキシードや綺麗なドレス姿でニューイヤーらしく華やかな演奏会で楽しかったです。来年もぜひ聴きたいです。
- 前半のモーツァルトプログラムはモーツァルトファンとして大満足。後半のホーネックさんの本場仕込みのウィナーワルツも満足以外の何ものでもありませんでした。



© ヒダキトモコ

前日1.19(木)には  
公開リハーサルを  
開催しました



ご来場の皆さまからは、「指揮者の一言でオーケストラの色が変わるのが聞けて楽しめた」「演奏を変化させていく過程がリハーサルならではの面白かった」「他の指揮者のリハーサルも見たい」「ホーネックさんの指揮でオーケストラの響きがウィーン風になるのが印象的」などの声が寄せられ、《完成形》を鑑賞する公演とは一味違って、音楽の楽しみが深まるよい機会となりました。

公式 SNS で最新情報配信中



紀尾井ホール

紀尾井ホール  
室内管弦楽団



チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット

<https://kioihall.jp/tickets>

公益財団法人 日本製鉄文化財団

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号 TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527 <https://kioihall.jp>

